夢追い人

(有)山田家具資材（晃山工房）

役員　山田　則子さん

(有)山田家具資材の役員、山田則子さんの「木のやすらぎ」展が、大川信用金庫若津支店で先月の十六日まで開かれていた。端材を使っているが、作り出された製品は端正で、女性らしい優美な雰囲気をもっている。足を止め見入る来場者も多く、好評を博した。作品は小物類が中心で、茶たく、おぼん、お箸などである。

今回は、端材の有効利用と商品化に取り組んでおられる、山田さんにお話を伺ってみた。

端材を使った製品作りのきっかけは何だったのだろうか。

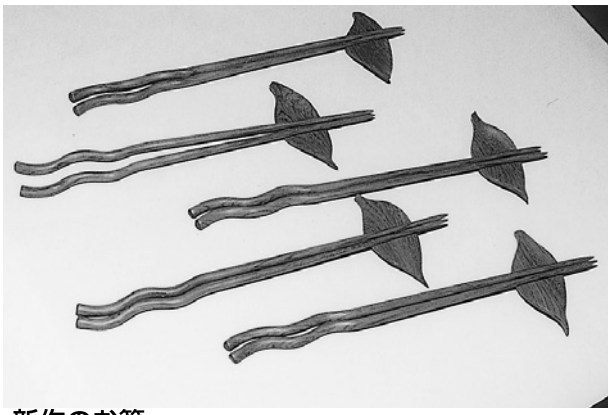
「以前から端材をなんとかしなければという思いがありました。たくさんの端材が焼却炉で灰になるのを忍びないと感じながらも、どうしたらいいかわからず、時間だけが過ぎていきました。でも何とかしなければと昨年の七月に思い立ちました。とりあえず端材を使って一つだけ作品を作ってみようと…。」

茶たくが最初のできた製品であった。ブナの端材を使った。会社の職人さんたちの協力を得て、試行錯誤を重ねつつも、いい作品に仕上がった。

「端材であるゆえ色や木目が一定していません。でもそのバリエーションが面白かったですね。」

第一作の茶たく

木の潤いを大事にした『大川の土産物』作りをしていきたい…



新作のお箸

その後二十種類ほどの製品を作ってきたが、今取り組んでいるのが、紫檀の端材を使った趣のある“お箸”。

こうした生活に密着した木の製品作りには、もう一つ訳がある。

「わたし自身が木の持つ温かさや心地よさが好きなんです。少し前に杣人の里(矢部村)に行ったとき、地元の人たちの木の作品が展示されていました。技術的には劣っていても、優しさやすがすがしさが伝わってきます…。

そこで、ある運送会社の社長さんとお会いしたのですが、毎週日曜日朝早くから車を飛ばして来られているとのことでした。『仕事の心痛や気苦労が癒される』と語っておられました。本当にやすらげます。

小さい頃から木に囲まれて育ったせいでしょうか、わたしも木の潤いを大事にした製品作りをしていきたいと思います」

商品化はまだまだ始まったばかり。現在ヴィラベルディ内のアミカ、瀬高駅構内の瀬高ドットコムなどで販売している。

これからの夢はなんだろうか。

「端材を使った製品作りを本格化させて、もっと無駄をなくしていきたいですね。また、それらの製品が生活の潤いに役立つ『大川の土産物』になっていけばと思っています。」